

広報

鳥海の里

題字 開成指導課あじさい寮 宇佐美 清枝

第113号 平成14年1月10日

発行 秋田県心身障害者コロニー保護者会

保護者会事務局

秋田県心身障害者コロニー
TEL(0184)32-1082 FAX(0184)32-1083 秋田県由利郡西目町出戸字孫七山3の2

生産品直売所「歩人」TEL(0184)33-4310 TEL(0184)33-2255 FAX(0184)33-2044

ホームページアドレス <http://www.fukinoto.or.jp/colony> E-mail colony@fukinoto.or.jp

迎春



鎧庵つと無氏の作品
(事務所大広間)

主な内容

- *保護者会長あいさつ.....2
- *保護者会研修.....3
- *研究発表会.....4
- *年末楽しみ会.....5
- *心いきいき芸術文化祭他.....6

招福干支
開成指導課木工科製品





年頭にあたつて

保護者会会長 田口良一

知的障害者は働けないもの、保護されるべきものとして戦後一貫して続けられた施設入所政策が、今ノーマライゼーションという理念のもとに、大きくハンドルが切り変わると（方向転換）している。国の責任で障害者を保護するとしてきた行政処分としての措置制度から、利用者の責任による利用契約制度が平成十五年度からスタートすることになる。

保護という名の一般社会からの隔離は、人間としての人権や生きがいを引き出せず、生活の安泰だけに甘んじた長期の施設入所者を数多く生み、入口だけで出口のない施設と言われ、福祉先進国からアブノーマル社会と酷評されてきたところである。

こうした反省に立つて、平成十五年から始まる福祉構造改革は、行政側の一方的な措置から、利用者本人が直接施設と交渉し、望むサービスを利用するという、利用者の主体性を尊重した仕組みにかわるのである。このことは、利用者の人権が尊重され、生きがいが助長されるものと期待されているが、反面、自己表現の下手な知的障害者が適切な施設を選択し、適切なサービスが受けられるのかとの心配もぬぐえないところで、成年後見制度や苦情解決の制度を設けてフォローするとしている。

又、構造改革では、障害者も訓練を積み、その人なりの能力を引き出し、地域社会で社会人として生活し

ていくことを大きな柱としている。すでにコロニーでもグループホームや体験ハウスを立ちあげて社会生活に向けた自活訓練を行っている。利用者は働きながら自活するという厳しさの中でも、コロニーの生活よりも生きがいと張り合いがあつて楽しいと一様に言っているという。基礎構造改革のねらいとするところは正にこのことなのである。

しかし、きびしい不況の中で一番早く職を失い生活の糧を失うのも又、障害者である現実をこの不況が痛い程教えていた。そしてそのことは、障害者が地域で暮らしていくためには、地域社会の大きな理解と少しの同情が絶対条件であることを教えていたのである。

さて、保護者会の運営はこれまで、資金運用益を原資として運営してきたが、昨今の金融機関の不況で、役員会で検討したところであるが、今後財政構造を改め、保護者会本来の姿である、会費制による運営をすべきとの答申を頂いたところです。これまでの支出に対する大巾な見直しを加えながらも、保護者会の目的がこれまで以上に達成される機能的な組織にしていくたいと考えております。詳しくは、総会の際に提案し審議して戴きますが、会員皆様の特段のご理解とご協力をお願い申し上げまして年頭のご挨拶と致します。



本年もよろしくお願い申し上げます

顧問	監事	理事	副会長
〃	〃	〃	〃

佐金細佐近高立岡篠鈴川相菅小田小田日口	藤須藤長谷川石浜井田嶋山林部	小田日口野源良
志子田渡藤橋原木木崎沢木原原木	木崎澤木原原木	和正和正和正
義文顕英利朋怜祥喜貞治	利重崇幸哲	忠宇治博
友潔夫一夫昭子子男一郎朗	雄治一良子	亮七雄子
		郎一郎

保護者会設立二十周年記念

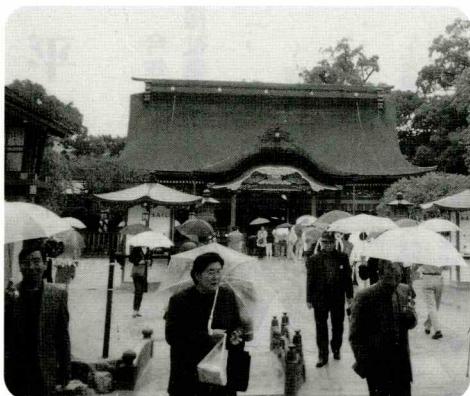
先進地視察研修旅行 ～長崎の旅～

十月十九日～二十一日、先進地視察研修旅行が実施されました。今年は保護者会設立二十周年記念事業として、南国長崎県へと向いました。

視察先である南高愛隣会では、はじめに福祉工場コロニー・エンタープライスの製麺工場の作業場を見学させていただきました。利用者の皆さんがあれぞ自信を持つて作業に取り組んでいる姿が印象的でした。さつそくお土産にと製品を手にする会員もありました。

次に、毎年施設入所者の一割の自立を取り組んでいるという訓練棟を見学させていただきました。施設のすぐ近くに位置しており、住込み職員を配置していることから、安心して家庭的な雰囲気で訓練を受けられている様子をうかがうことができました。

利用者の皆さんのが自分の望みをかなえ、生き生きとした生活を送ることができるように我々保護者も力添えていくことの必要性を感じた研修でした。最後になりましたが、お忙しい中応対してくださいました副山施設長さんはじめ職員の皆さんに厚くお礼申し上げます。



研修の後は観光めぐり 太宰府天満宮



晴天に恵まれた長崎ハウステンボス



長崎平和公園にて

平成十二年度 研究発表会開催

今年で二十五回を数えるコロニーの研究発表会が十二月五日催され、県障害福祉課、社会福祉事業団事務局はじめ他施設、保護者会役員、コロニー合わせて百十名が参加しました。

一、「高齢者棟の現状と課題」

「個別援助計画書から今後の方向を探る」

赤光指導課主事 羽川毅郎

二、「利用契約に向けて」

「支援費制度の概要及び施設として取り組むべき課題」

開成指導課補佐 近藤浩

三、「知的障害者施設における運動療法の取り組み」

「健康寿命の延長を目指して」

診療所主事 高橋孝幸

四、「地域生活支援の現状」

水林通勤寮主事 阿部拓己

以上、四つのテーマで、それぞれ実践を踏まえた取り組みが発表され、その後菅原病院作業療法士の石川智佐子氏から、対人援助を行つていくまでの貴重な助言を頂きました。

発表会に引き続き行われた講演では、山形県社会福祉事業団サポートセンター「おきたま」の菅洋一氏から、「地域支援を創造するために」施設から地域へ、雇用支援から総合支援へと題して、様々な実践を積み重ねてこられた中からの貴重なお話を伺うことができました。コロニーでも、体験ハウス、グループホーム等既に地域支援を展開しているが、今後、更にひとりひとりが住み慣れた所で、安心して自分らしく暮らしあけられるよう支援体制の充実に努めています。

研修委員会 和田光子



大変すばらしい研究発表でした。高齢者介護の難しい所を、父親でも出来ないことを職員の皆さんで研究していることに感謝しています。

発表時間、1人30分は必要。ビデオテープを併用した方がわかりやすい。

目に見えてきている高齢化社会の状況を直視する時、いろんな面で「ケア」する職員達の日頃のこうした研究発表会は、我々保護者も放っておけない心境であり、改めて敬意を表したいと思います。

研究内容が年々向上発展している。他の研究会よりも目的が明確であり意欲的で、発表者は自信を持っている。又、目的に応じた観点をおさえ、研修・研究課題を捉え問題解決にせまっていると感じた。

利用者の人権を大切にし、利用者本意の生活がはっきりわかる内容がビデオ等で具現化されていて発表内容が定着できたと思う。

運動療法の発表の中で、今後起立困難者が20%超えると聞き驚いている。利用者を帰省させた時、これから出来るだけ歩くようにさせて、足腰を衰えさせないようにしようと思っている。

保護者の感想

今回の発表では、個人のニーズに応じ、とても良く援助計画が組まれている事を強く感じました。又、利用者を出来るだけ外へ出すようにしている事と、外出時にはオートダイヤルカードやヘルプカードというものを持たせたりして、様々な苦労をされている事に心より御礼申し上げます。

私は達が気が付かなかつた事、今後の課題がわかつたような気がします。もう一度、資料をゆっくり読んでみたいと思います。大変すばらしい発表でした。

初めて聴講いたしました。現場の第一線の方々の現状分析、対策、課題等を聞いて職員の皆様の日々の活動がよくわかりました。今後も、業務の改善、効率化を図っていくことは大変かと思いますが、頑張っていただきたいと思います。

12月、各指導課において年末の楽しみ会が行われました。唄あり、踊りあり、プレゼントあり…。利用者の皆さんには、1年を振り返り、作業の頑張り等について語り、目の前のごちそうに舌鼓を打ちながら終始笑顔が絶えませんでした。

年末 会

銀杏指導課一般棟
各馬一斉にスタート！



赤光指導課こぶし寮
みんな張り切ってます



何が入っているのかな？



赤光指導課すみれ寮
お楽しみ会

白光指導課
サンタさんからのプレゼント



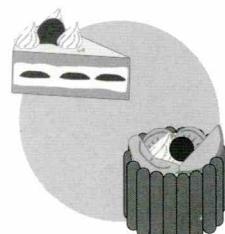
思わず笑がこぼれます



開成指導課更生棟
ボランティアさんによる
大正琴の演奏



赤光指導課あざみ・みづき寮
このあとにはケーキの
バイキングが待っていた



創生指導課
ふたりで熱唱!?

平成13年度 秋田県障害者福祉展

心のきいき芸術文化祭 受賞者の顔



奨励賞



奨励賞



金賞



赤光指導課
絵画 秋のみのり
木津川寅雄さん



開成指導課 かえで寮
沢口 金勇さん



開成指導課 あやめ寮
田口 リエさん

寅雄さんは、手が不自由なため、足の指に鉛筆をはさんでこの絵を描き上げました。余暇活動を利用しつつ、「絵を仕上げている時の表情は輝いていました。」と抱負を語りました。

書道教室は今から五年ほど前、友達が習っていたことがあります。私がきっかけでした。月に二回、休日に行われる書道教室が楽しいとのことです。教室が楽しいと、受賞した掛け軸の書を見ながら「字も覚えられるので、続けたい」と笑顔です。

「コロニーに来てから始めたという刺し子ですが、技術的にもすばらしく、そのにう年齢を感じさせぬ美しい姿勢は六十八歳といふ年齢を感じさせぬものであります。」と笑顔です。

「コロニーに来てから始めたという刺し子ですが、技術的にもすばらしく、そのにう年齢を感じさせぬものであります。」と笑顔です。

お礼とお願ひ

赤光指導課長 塚本 勝司

「鳥海の里一一二号」に、お盆以降行方不明になつてゐる高谷三郎さん（合川町出身）の情報を提供のお願いの記事を掲載しましたが、地元合川町始め西目町や大野台の里からもご協力頂き、計四回にわたり大規模な搜索を展開しました。しかし、懸念の搜索にもかかわらず全く所在をつかむことができずに、昨年の十一月十五日の搜索をもつて一旦終了しました。

お盆以降、コロニーの保護者の方々始め多方面から情報の提供を頂きましたが、残念ながら、発見には繋がらませんでした。冬を迎えると、従来のような搜索は中断しますが、引き続き情報の提供はコロニー事務所を窓口としますので、何がありましらご連絡下さるよう、よろしくお願ひいたします。

連絡先 TEL 0184-33-1255
FAX 0184-33-1044

◇保護者	けやき寮 斎藤 寿紀さん (四十歳)
◇保護者	かつら寮 斎藤 守さんの (五十三歳)
◇保護者	あやめ寮 田口 久美さんの 保護者 ミエさん
保護者	こぶし寮 佐々木勝太郎さんの 保護者 高橋喜作さん

利用者の動き
《入所》 十一月一日付 赤光指導課あざみ寮
十二月一日付 銀杏指導課けやき寮 東海林 学さん(本荘市出身) 赤光指導課みづき寮 打矢 喜幸さん(秋田市出身) 《退所》 十一月三十日付 赤光指導課みづき寮 高谷 三郎さん(合川町出身) 銀杏指導課すずらん寮 黒沢アサ子さん(秋田市出身)
十二月二十七日付 《退所》 十一月三十日付 赤光指導課みづき寮 高谷 昇進さん (高谷三郎さんの保護者)
十二月二十七日付 《退所》 十一月三十日付 赤光指導課みづき寮 高谷 三郎さん(合川町出身) 銀杏指導課すずらん寮 黒沢アサ子さん(秋田市出身) 打矢 喜幸さん(秋田市出身) 《退所》 十一月三十日付 赤光指導課みづき寮 高谷 昇進さん (高谷三郎さんの保護者)